

令和7年度自己評価報告 (改善の結果および次年度に向けた改善方策について)

世田谷区立喜多見中学校
校長 紺谷 祥一

1 教育目標

人権尊重の精神を基調として、自ら考え、自ら学び、主体的に生きる生徒の育成を目指し、次の目標を設定する。

- (1) より深く学ぶ (生徒を育てる)
- (2) 勇気と思いやりをもつ (生徒を育てる)
- (3) 健康で明るい (生徒を育てる)

2 学校の重点目標と基本方針

世田谷区教育目標「幸せな未来をデザインし、創造するせたがやの教育」を軸に、特に激しく変化して多様性に溢れる社会を「生き抜く力」と「自ら展望して理想に向かう力」の育成・強化を図る。その際、次のスローガンを掲げ、以下を重点目標とする。

令和7年度 学校スローガン：「理想への挑戦」～ 今、そして未来へ～

1 「キャリア・未来デザイン教育」の実現に向けて

- ・将来展望をもち、諦めず挑戦できる強い意志の育成
- ・自己決定を促す自由な学びの場を通じた主体性の伸長

2 教育DXの推進に向けて

- ・教育DXを「授業改善推進プラン」における必須ツールとして位置づけ、一人ひとりに合わせた学びの実現

3 多様性の尊重と共に学び、共に育つ教育の推進に向けて

- ・「いじめ」防止の徹底と人権教育の一層の強化推進
- ・「特別の教科 道徳」の充実
- ・教育相談活動の定着、要配慮生徒への確実な支援履行
- ・生徒間、生徒と教師、教師と保護者の強い関係づくり

4 地域社会と協働した教育の推進に向けて

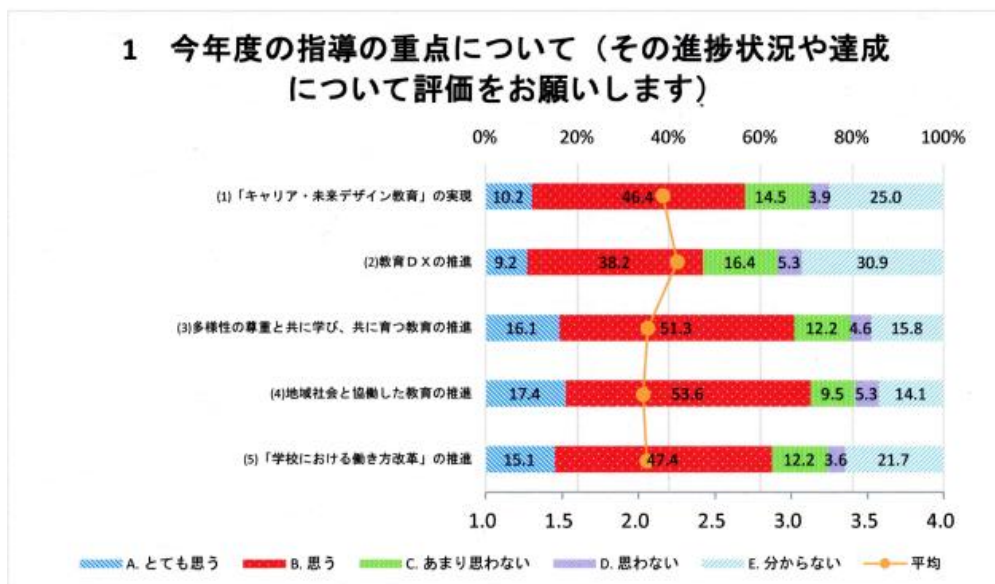
- ・地域ボランティア活動への参加促進
- ・町会や小学校との連携強化 (学校を核とした地域作り)

5 「学校における働き方改革」の推進に向けて

- ・地域マンパワーの積極的な誘致活用
- ・休暇等の数値目標に基づく健康管理



3 今年度の指導の重点について ※学校関係者評価 (保護者回答)



(1) 重点目標に係る評価について（学校関係者評価より）

【生】：1～3年生の生徒全体平均 【保】：1～3年生の保護者全体平均 【地】：地域

ア 「キャリア・未来デザイン教育」の実現

質 問 項 目	肯定率 (A+B の割合)	
	R6 年度	R7 年度
学ぶことが楽しい。【生】	69.1%	64.2%
本校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している。【保】	—	66.4%
自分の進路や将来の仕事について、考える授業がある。【生】	—	75.0%
子どもは、自分の進路や将来の仕事について、ときどき考えている様子だ。【保】	—	67.8%
自分の進路や将来の仕事について、ときどき考える。【生】	79.5%	75.0%
本校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している。【保】	67.1%	66.4%
自分で決めることを大切にしている。【生】	84.3%	78.7%
人の役に立つ人間になりたい。【生】	—	86.1%
将来の夢や目標をもっている。【生】	—	62.5%

※改善の結果と次年度に向けた改善方法

唯一の区共通質問である「学ぶことが楽しい」では、それぞれ学年別の肯定率を俯瞰すれば、1年生：64.2%、2年生：58.8%、3年生：66.4%であり、特に2年生において学ぶ楽しさを見出し切れていない子どもが多いことがわかる。家庭学習に係る質問（「宿題や塾のない日でも、一定時間過程で勉強している」）に対する回答（1年生：44.6%、2年生：23.7%、3年生：66.4%）も、同様に2年生の肯定的回答が低く、関連している結果となった。種々の生活調査や「学び舎」での意見交換でも、たびたび家庭学習の習慣が身に付いていないことが今年度も課題となっており、改善に至っていない。引き続き入学後の早い段階から学習方法等に関するガイダンス機能を高めた指導を展開することが有効であると捉える。

キャリア・パスポートの有効活用として、月に1度「モーニング・キャリア」として朝学習の時間を用いて自らのキャリア・パスポートを見返す時間を設定して3年目を迎えている。しかしながら、質問「私は、キャリア・パスポートに書いた目標について、考えて行動している。」に対する肯定率は依然として低く、目標立てはできて、その達成に向けた具体の行動に至らない子どもが多い。特に、「人の役に立つ人間になりたい。」に対して9割に近い子どもが肯定している現状をとらえれば、より具体的なキャリア形成に係るガイダンスを通じ、個に応じた学習指導の充実が必要であることが明確となった。

また、キャリア教育に係るどの質問においても、肯定率こそ高くないが保護者の否定的な回答は非常に少なく、DK値（「わからない」とする回答が非常に多い。保護者に対しては、引き続き種々の教育活動に係る情報をこまめに発信したり、保護者参加型の授業形態を積極的に展開したりしながら啓発を継続する。

イ 教育DXの推進

質問項目	肯定率 (A+Bの割合)	
	R6年度	R7年度
喜多見中からの情報発信(学校だより、ホームページやメールなど)で、保護者に十分な情報を提供している。【保】	85.0%	83.9%
私は、タブレット端末やSNS等の使用上のマナーやルールを守っている。【生】	88.1%	84.5%
子どもは、タブレット端末やSNS等のマナーやルールを守ることができている様子だ。【保】	57.9%	61.9%

※改善の結果と次年度に向けた改善方法

当関係者評価における質問項目にこそないが、タブレットや学習アプリ等の活用により、生徒の理解度に応じた学習が適切に展開されている。ICT機器に強い若手教員が主導し、教育DXに特化した校内研修を開催したり、タブレットの機能をミニ研修の形式で流布したりする場面が日常的になっており、一定の効果を生んでいる。また、教育DXは教員の平素の働き方改革にもつながっており、採点の効率化、出欠管理のデジタル化、教材の共有など、これまでのペーパーレス化以上の業務の効率化に至っている。

また、生徒における教育DXには、使用頻度(量)から活用方法(質)に確実な転換が図れた。特に、「タブレットの文房具化」を合言葉に授業中にタブレットを自由に使用することを許可しているが、生徒の情報モラルに対する意識も向上しており、引き続きこの取り組みを継続したい。本校では特に未然防止型の生活指導を展開するにあたり、「個人情報保護(人権教育)やセキュリティ管理」、「フェイクニュースや著作権の理解」等についても継続して指導を展開し、一層のスキル向上に努める。

学校関係者評価アンケート(「タブレット端末やSNS等の使用上のマナーやルールを守っている。」)の結果は、昨年度同様に生徒と保護者の意識に乖離がある。家庭においては、貸与されたタブレットで動画配信サイトに興じたり、個人のスマートフォンの使い方において家庭でのルール違反があったりするなど、保護者に課題と感ずる場面があることが垣間見られる。引き続き保護者との連携を図りながら次年度以降も継続して指導を展開する。

ウ 多様性を尊重しながら共に学び、共に育つ教育の推進

質問項目	肯定率 (A+Bの割合)	
	R6年度	R7年度
私は、友だちなど、相手のよさを認めつつ、思いやりの気持ちをもって接することができる。【生】	87.5%	86.1
本校は、学校での過ごし方やルールについて子どもに考えさせる指導をしている。【保】	62.2%	71.4
先生は、学校での過ごし方やルールを生徒に考えさせて指導している。【生】	84.0%	80.4
本校は、教員が指導した学校での過ごし方やルールについて子どもが理解している。【保】	64.1%	83.6
私は、先生が指導した学校での過ごし方やルールについて理解できる。【生】	84.6%	78.0
先生たちは、生徒が相談しやすい。【生】	68.3%	71.0
本校は、子どもや保護者が相談しやすい。【保】	73.3%	69.8

※改善の結果と次年度に向けた改善方法

本校の人権教育の象徴として実施する「きたみ人権デー」は二年目を経て定着し、いじめの発生件数はじめ、生徒間トラブルなどの発生は非常に少なく大きな効果を見ている。未然防止型の生活指導を展開する中では、毎月の「きたみ人権デー」で取り扱った内容を引き合いに出して指導を展開する場面も少なくない。今年度は、これまでの校長による講和から教員が輪番で話す機会を得たことで、学校を挙げて人権教育に取り組んでいる雰囲気が醸成できた。

多様性を尊重しながら共に学び、共に育つ教育の推進に当たっては、いわゆる「合理的配慮」は不可欠であり、一律の指導が困難な場面は少なくない。生徒への質問「私は、友だちなど、相手のよさを認めつつ、思いやりの気持ちをもって接することができている。」に対し、今年度も9割弱の生徒が自信をもって肯定的に回答をした。次年度においても、月に一度朝の時間を活用した「きたみ人権デー」を実施しながら引き続き不易を重んじ、確固たる土壌を作り上げたい。

さらに、昨年度まで校内の教育相談体制に対する課題があったが、「相談しやすい」とする肯定率が特に生徒でポイントの上昇を確認できた。この背景には、教師の生徒に寄り添った指導姿勢の定着がある。「生徒と教職員の関係」、「教職員と保護者・地域の関係」について引き続き大切にし、教育相談に厚い学校作りをめざす。

エ 地域社会と協働した教育の推進

質 問 項 目	肯定率 (A+B の割合)	
		R6 年度
地域の人や施設を教育活動に活かしている。【地】	76.6%	90%
本校は、ボランティア活動や地域行事に参加しようという気持ちなど、社会に貢献しようとする生徒を育成している。【地】	93.3%	100%
喜多見中は、地域から愛され応援される学校として成長している。【地】	86.7%	100%

※改善の結果と次年度に向けた改善方法

コロナ禍が明け、生徒のボランティア活動への参加を積極的に促した結果、本校の方針が地域に浸透して支持される結果となった。ボランティア活動への生徒の参加は、自己有用感の醸成に有効であり、種々のボランティア活動への参加を通じて自己の行動が他者や社会に貢献しているという実感や満足に繋がるなど、一定の効果がある。引き続き地域との連携を強化しながら、一層の参加促進を図る。

オ 「学校における働き方改革」の推進

(学校関係者評価における関連データなし)

※改善の結果と次年度に向けた改善方法

種々の学校発信文書の電子化や「見守り顧問制度」(活動場所ごとに顧問を一括編成する部活動の展開)等は定着し、一定の効果を得ている。職員室では、各教職員の机の上に当日の退勤予定時刻を朝のうちに掲示し、教職員相互で超過勤務に対する意識を高めた。「学校における働き方改革」の目的は、子どもと向き合う時間の捻出、教育の質的向上、教職員の健康維持等あるが、すべてにおいて一定の効果を見ることができた。こうした取組みに挑戦できる背景には、偏に保護者との一定の信頼関係と理解があった。次年度以降についても、異動に伴う新しい人的体制を整えながら継続実施してその目的達成をめざす。

また、教職員の年次有給休暇の所得日数や勤務時間外在校時間については、依然として全教職員が達成するには至らなかった。個々の教職員間における差は大きいことから、次年度においては一層組織

目標としての意識啓発を高める。

4 学校関係者評価アンケート全般について

(1) 生徒対象アンケートより

質問「自分には良いところがある」に対し、今年度は全体で71.3%の肯定率を得た。この結果を学年別に俯瞰すると、1年生：61.4%、2年生：69.1%、3年生：80.2%の生徒が、肯定的に回答をしたように、学年が上がるにしたがって高い自己有用感が確認できた。この背景には、本校の「キャリア教育」の充実があり、さまざまなシーンの中で子どもたちは成功体験を積みながら自身の良さに気づく機会を得ていることがわかる。

一方、キャリア教育に係る箇所でも触れたが、質問「人の役に立つ人間になりたい。」に対して86.1%が肯定的に回答しているが、「将来の夢や目標をもっている。」に対する肯定率は62.5%に留まり、漠然とした理想はあっても具体的な目標を抱いていない現状が垣間見える。いきおい、平素の家庭学習の充実度についても低く、学習そのものに対するモチベーションの低さの背景としてとらえることができると分析している。引き続き、自己の良さに対する気付きを促し、その良さを引き出したり深化させたりしながら、子どもたちのキャリア形成を促進しつつ、一方で具体的な「勉強のやり方」等のガイダンス機能を充実させることが喫緊の課題と認識している。

(2) 保護者対象アンケートより

昨年度同様に、学校からの情報発信について肯定的回答が多く寄せられた。また、次いで、「子どもは、喜多見中の校則やルールについて理解している模様だ」、「子どもは、自己の責任を果たそうと努力している」、「学校公開や保護者会などの頻度は十分であり、生徒の様子がわかる」等の質問においても、8割以上の肯定的回答を得ることができた。理不尽な校則を廃止し、生徒の自治の力や場や時に応じた言動ができる生徒の育成が浸透しつつあり、保護者の共感が得られた結果と捉える。引き続き、自己決定を柱とする自由な校風を堅持しながら、生徒の主体性や集団生活での高い自治の力を育成する。

一方、記述欄においては、一部の部活動での行き過ぎた指導や特定の教科の評価に対する不安や不満の声も寄せられている。部活動にあっては、特に外部指導員の指導実態を含め、区のガイドラインを遵守することを全教職員と確認し、そうしたクレームが起こらないよう細心の注意を払う旨を確認した。また、評価評定についても、寄せられた声を謙虚に受け止めながら、より透明性や確度の高いものを提供し、子どもたちの学びに確実に還元できる評価評定の在り方について次年度早々に保護者に示せるよう、準備する。

(3) 地域対象アンケートより

「本校は、ボランティア活動や地域行事に参加しようという気持ちなど、社会に貢献しようとする生徒を育成している。」、「喜多見中は、地域から愛され応援される学校として成長している。」において、100%の肯定的回答を得ることができた。避難所運営訓練をはじめとする、種々の地域の活動において積極的に生徒をボランティアとして派遣する姿勢が一定の評価を得ていると捉える。地域から愛され応援される学校として引き続き成長できるよう、努める。

5 教職員の分掌業務に係る年度末反省及び次年度の方針について

(1) キャリア教育部

<今年度の成果>

- ・キャリアパスポートを学年ごとに冊子にしたことで、管理や振り返りがスムーズに行えた。
- ・多様な外部の方を招いた授業を多く実施することができた。
- ・3学年対象に、都立高校の先生による出前授業を効果的に実施できた。

＜今年度の課題＞

- ・PTAによる企画を含め、内容（落語など）について一部重複があった。
- ・出前授業の依頼などで、時間に余裕のない計画を立てた。
- ・進路説明会について、資料を読み上げるだけの運営にならないよう魅力ある運営を求められる声があった。また、進路面談においても準備が十分でない場面があったことを指摘されるなど、満足に至っていない意見が一部に寄せられた。

＜次年度の方針＞

- ・学年ごとのキャリアパスポートをブック化してより活用させる。
- ・計画的、かつ、効果的な外部講師（ゲストティーチャー）の活用の一層の推進
- ・進路説明会について、形態について吟味するなど一層の工夫を凝らす。

＜今年度の課題に対する改善案及び具体的な方策＞

- ・キャリアパスポートにモーニングキャリアを合わせ、学年ごとの冊子を作成する。
- ・外部講師（ゲストティーチャー）を学年ごとに集約しリスト化する。また、単年で終わることなく継続して活用する。
- ・地域（の方）と連携した取り組みを増やす。
- ・進路説明会は進路の制度説明にとどまらず、高校の先生生を招いた説明会の実施をPTAと連携するなどして検討する。

その他

- ・出前授業は、2年での実施を検討する。
- ・出前授業や小論文・面接対策講座などの講師依頼は、早く時期を決めて連絡をとって実施する。
- ・講師によっては謝礼が発生するため、キャリア教育部内での連絡を図る。また、できるかぎり謝礼の必要のない講師を招へいする。

（2）教育相談部

＜今年度の成果＞

- ・情報交換にとどまらず、様々な角度からアセスメントを取り、支援の方向性を示しながら対応できた。
- ・学年会で上がった情報を相談部で吸い上げながら対応できた。

＜今年度の課題＞

- ・部会で取り上げた生徒について、経過を見ながら十分に支援の振り返りを行うことができなかったケースもあり、改善が必要。
- ・個別の案件を取り上げることが多く、全体の中で十分に見取れきれないケースも一部あった。

＜次年度の方針＞

- ・学習面や行動面で特別な教育的支援が必要な生徒に早期に気づくことが肝要である。
- ・支援が必要な生徒の実態把握を行い、学級担任や教科担任への支援方法を具体化する。
- ・個別指導計画や教育支援計画を立案して対応できるよう配慮や援助を行っていく。
- ・専門家チームに判断を求めるかどうかを一層迅速に検討する。
- ・特に講師への周知を含め、教職員の一層の共通理解を深める。

＜今年度の課題に対する改善案及び具体的な方策＞

- ・支援対象生徒一覧を作成し、リストアップした資料をしっかりと確認しながら部会を進めてく。
- ・生徒に係る情報共有の場では、見えてこなかった情報について年度当初だけでなくその後の会議等でもアップデートできるようにする。
- ・不登校生徒への校内支援委員会をふれあい月間と同じ時期に行う。(年3回)

その他

相談部を一層頼れるようお願いしたい。相談部は、担任を支えられるような支援チームとして存在している。喜多見中の教育相談や支援体制について、頼られる存在となり機能できるように取り組む。

(3) 教 務 部

今年度の成果と課題について

＜今年度の成果＞

- 週時程の設定、定期考査の計画、成績処理については適切に計画・実施できていた。
- 教科書、文書・ファイル管理に関しても概ね適切に処理できていた。
- それぞれの教務を適切に滞りなく進めるという観点で見れば、概ね問題なく進めていくことができていた。

＜今年度の課題＞

年度末反省より

- ① 毎日の欠席入力はなかなか統一が難しかった。
- ② 朝礼等の表彰で被表彰者の服装への指導が十分でないことがあった。
- ③ 学校公開では、テスト前後を避けることが望ましい。
- ④ 三者面談の日程にゆとりを持たせたい。

学校関係者評価より以下の声が寄せられた

- ① テストの配点をより一層記載してほしい。成績のつけ方が不明確である印象がある。
- ② 定期考査の前後に一層の質問教室など、環境をつくってほしい。
- ③ 定期テストの範囲表記に訂正などないよう、細心の注意徹底をお願いしたい。
- ④ 運動会の延期が月曜でなく火曜、土曜授業の振替が金曜などより説明が必要と感ずる。

2 次年度の方針と具体的な方策について

＜次年度の方針＞

- 学校行事の日程及び内容の精査。
- 以下の課題（成績にかかわることに関して）の迅速な改善。

＜今年度の課題に対する改善案及び具体的な方策＞

年度末反省より

- ① c 4 t h の欠席入力を徹底させる。操作方法の周知や権限を確認し、学年全員で協力での体制を整える。
- ② 事前指導とともに整列する際に確認する。表彰生徒に該当する部活等でも指導する。
- ③ 来年度の行事予定に反映させる。
- ④ 来年度の行事予定の12月の面談に反映させる。

学校関係者評価より

- ① テストの観点別の配点を全教科記載する。HPに評価基準の記載はしている。ただ、より明確にできるように、観点別の%を記載していく。
- ② 今年度実施した面談裏の補習教室のように、テスト直前でもできるように検討する。

- ③ チェックするシステムはできているが、範囲変更の対応ができていなかった。変更の場合はもう一度、範囲表の訂正版を配布する必要がある。
- ④ 運動会：年度始めから運動会の振替の月曜は休業日と決まっている関係で、急な変更・実施は難しいと考える。予備日は最初から授業日である火曜日が妥当である。土曜授業の振替：世田谷区はどこに設定しても良いと考えており、土曜授業の週の前後の学校行事の関係で、生徒や職員の負担等を考えて設定している。

3 その他

○1 学期中間考査の有無に関しては、今年度の学力状況をみると学習に力を入れる必要があるため、来年度も実施する。

(4) 生活指導部

<今年度の成果>

- ・毎週指導部会を開催し、情報共有を確実に行うことができた。
- ・部会内の役割を明確に分け、部員の先生方は迅速に丁寧に仕事を全うした。
- ・学校の決まりの選定や合理化を図ることができた。
- ・部会での報告をICT化することで全職員に情報を共有し、記録を残すことができた。
- ・大きないじめや事故、怪我、物損等が少なかった。

<今年度の課題>

- ・決まりやルールの職員間での統一や指導の温度感に差がある場面があった。
- ・大掃除の削減などにより、「すくピカ」など清掃キャンペーンの目的が変わった。
- ・タブレットの不正使用や廊下での過ごし方などの生徒の規範意識の醸成が不十分であると感じる場面があった。
- ・部活動の下校時刻が守られていないことがあった。
- ・朝礼時に教員が後ろに立つなど、指導が十分に行えていない場面があった。
- ・十分にあいさつのできる生徒が減っている印象がある。

<次年度の方針>

- ・「未然防止型の生活指導」を継続させる。
- ・生活のきまりの教職員・生徒への周知
- ・ヘルメットなどを活用した避難方法・経路の確立
- ・ガイドラインに沿った部活動指導の展開の徹底
- ・ICT機器を活用した指導に関する情報共有

<今年度の課題に対する改善案及び具体的な方策>

- ・年度末・年度初めに「生活のきまり」を部会から示し教職員全体で検討・共有し、年度当初に全生徒の前で周知・確認する時間を設けたいと考えている。また、教職員間で一層統一した声かけをする。
- ・大掃除の代わりにすくピカチェックをするのではなく、日ごろから掃除の指導を丁寧に行い、すくピカそのものを廃止していく。また、清掃個所の選定をし、教員が指定された箇所を入念にみられるようにする。
- ・朝礼や学活などで規範意識の醸成について常に生徒の耳に入れておくよう指導する。
- ・部活動の下校時刻に関してはミーティング場所を玄関前などに変更してもらうなど、顧問先生との協力を密にしていく。
- ・朝礼時にはなるべく多くの先生で朝礼の態度を見て、指導面でも安全面でも生徒への声掛けを徹底していく。また、4月の全校集会時に朝礼の並び方や受け方を

全体周知する。

- ・生徒会のあいさつ運動を拡大するのも大切だが、教員自身もあいさつを積極的にしていくようにする。

その他

上履き、体育館履きの一本化、生徒手帳のカード化など検討する。